

平成 22 年 7 月 7 日

各 位

株式会社 埼玉りそな銀行

『埼玉ブルーベリープロジェクト』の推進について

りそなグループの埼玉りそな銀行（社長 上條 正仁）は、7 月 8 日（木）、埼玉県（本庄農林振興センター）、美里町、財団法人本庄国際リサーチパーク研究推進機構と連携し、埼玉県産のブルーベリー加工品等による地域ブランド化を推進していくことを目的に、『埼玉ブルーベリープロジェクト研究会』を設立いたします。

本研究会は、埼玉県の有力な地域資源であるブルーベリーと、その加工用途であるアイスクリーム・洋菓子などの食料品製造出荷額が多い県内産業基盤に着目し、官民連携の農商工連携プロジェクトとして、中長期的な観点で地域ブランド化に向けて取組んでいくものです。

【第 1 回研究会概要】

- 名 称：第 1 回『埼玉ブルーベリープロジェクト研究会』
- 場 所：本庄農林振興センター会議室（本庄市朝日町 1-4-6）
- 日 時：平成 22 年 7 月 8 日（木） 15:00～17:00
- 主 催：埼玉りそな銀行、埼玉県（本庄農林振興センター）、美里町、本庄国際リサーチパーク研究推進機構（事務局：埼玉りそな銀行）
- 参加者：農業生産者、食品一次加工業者、菓子・パン製造業者、酒造業者、飲料メーカー、流通・小売業者等 15 社程度

（ご参考）埼玉県のブルーベリー栽培面積は全国第 3 位※1、市町村単位では美里町が全国第 1 位※2 です。また、埼玉県の食料品製造出荷額は全国第 3 位※3、アイスクリームならびに洋生菓子の製造出荷額はいずれも全国第 1 位※3 です。

※1 平成 18 年特産果樹生産出荷実績調査 ※2 平成 16 年特産果樹生産動態調査及び美里町独自調査

※3 平成 19 年経済産業省工業統計

昨今の国際的な食料事情の変化や消費者の安心・安全意識の高まりを反映して、地産地消や農商工連携、企業の農業分野参入など農業関連ビジネスは、新たな成長分野として近年注目されています。今回の農商工連携プロジェクトは、行政・支援機関の施策と埼玉りそな銀行の持つ食品産業のネットワークを融合させることで、農商工連携をより広域的横断的に発展させることを目指しています。

埼玉りそな銀行では、埼玉県内の農業生産者や食品加工業者等と全国の食品担当バイヤーのビジネスマッチングを目的とした『農と食の展示・商談会』（昨年 2 月、12 月に開催）や食品産業や異業種からの『農業分野参入セミナー』（昨年 7 月に開催）など、埼玉県の特性を活かした地域産業の育成支援を目的に、農業関連ビジネスへの取り組みを強化してまいりました。

埼玉りそな銀行は、埼玉県経済の活性化に積極的に取り組むとともに、地域に密着した信頼されるパートナーとして、埼玉県の皆さまとともに発展することを目指してまいります。

以 上